

授業科目 遺伝学と保健医療

【担当教員名】 渡邊 裕美		対象学年	1	対象学科	看護
		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	◎	○		
【概要・一般目標：G10】 遺伝子解析技術の進歩により、親から子へと遺伝するいわゆる「遺伝病」だけでなく、性格、体質、生活習慣病などなど、ヒトの病気と健康に関わる殆どすべてに遺伝子の働きが関わっていることがわかってきた。この科目では、生命現象が遺伝子から蛋白質への流れに基づくこと、遺伝子変異や染色体異常と疾患の発生との関連、遺伝子技術の基本事項について講義する。さらに遺伝子技術の医療への応用について紹介し、遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮について考察する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝学とは何か、また、現代遺伝学の基盤となる考え方について述べることができる。 2. 遺伝情報を担う分子である DNA や RNA について、その役割を説明できる。 3. 遺伝子の担体である染色体の構造と染色体異常について説明できる。 4. 遺伝性疾患（遺伝病）とは何かを説明できる。 5. メンデル遺伝の3つの様式を説明でき、代表的疾患を例示できる。 6. メンデル遺伝の形式によらない主な疾患を例示し、その発症のメカニズムを説明できる。 7. 基本的な遺伝子技術を説明できる。 8. 遺伝子技術の医療への応用について生命倫理面から考察できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	遺伝学のおよみ			1, 4, 5	講義
2	遺伝情報と遺伝子			2	講義
3	遺伝子の担体としての染色体とその異常			3	講義
4	ヒトの遺伝と遺伝子病（1）メンデル遺伝病			4, 5	講義
5	ヒトの遺伝と遺伝子病（2）メンデル遺伝形式によらない遺伝病			4, 6	講義
6	遺伝子技術とその応用			7, 8	講義
7	遺伝医学の展開と保健医療			7, 8	講義
8	まとめ				試験（筆記試験）
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		遺伝医学への招待	新川詔夫、阿部京子	南江堂	1,800円
		遺伝医学やさしい系統講義 18講	福岡義光 監修	メディカル・サイエンス・インターナショナル	4,725円
その他の資料		講義資料プリントを配布する。			
【評価方法】 講義最終回に試験を行う。筆記試験の成績を重視し、講義の出席状況（3分の2以上が必要）および講義の最後に小テストやミニレポートを行なった場合はそれらを加味する。不合格者には再試験を1回に限って行う。			【履修上の留意点】 プリントなど補助教材を使用して講義するので、内容を復習すること。 新聞、テレビ、書籍、インターネットなどにより、関連した情報を日頃から知るように心がけること。 参考書は随時紹介する。		